

ねがいのいえニュース 第63号

生活支援ハウスねがいのいえ広報紙・2022年7月15日発行

発行責任者：藤本真二 〒331-0071 さいたま市西区高木185-29

Tel (048) 626-1909 Fax (048) 626-1920

E-mail info@negainoie.or.jp Hp http://www.negainoie.com



命の危険を感じるほどの暑さが到来していますが、みなさまご無事でしょうか？コロナ禍は少し落ち着きを見せているとはいえまだ先行きは不透明であり、世界情勢が経済に与える影響もこれから現れると言われてしています。事業者の危機はまだ続きますし、ひいては利用者のみみなさまへの支援にも影を落としていることには変わりはありませんが、誰ひとり苦しむことのないように、私たちはやはり歩みを止めずに進むしかないと思っております。

20年目を迎えて

NPO 法人ねがいのいえ開設以来19年間、みなさまの生活を24時間年中無休で支えてきました。その間には多くのドラマがありました。それぞれの家庭に幾多の危機が訪れ、ひとつひとつ解決しながらみなさまと一緒に歩んできました。

そして今、19年前幼児だったみなさまが立派な大人になり、家族から自立する時を迎えています。ねがいのいえはみなさまの生涯を支えることを約束してグループホームの整備に着手し、50人のホーム入居を目標に進めているところです。

障害のある人を国として支える法制度がなかった20世紀から時代は大きく変わり、全ての障害者家族が多くのお事業者と出会うことができる社会に変わりました。しかし障害の中でも、人数が少ない種類の方たちにはまだ十分な支援が届いていません。医療的ケアのある方、強度行動障害のある方たち等です。その方たちには通所のサービスも不足しているし、医療的ケアのある方が入居できるグループホームは全国に数軒しかなく、強度行動障害に至っては、受け入れてみたけれどうまくいかず退所せざるを得ないという実情が伝わっています。さらには、強度行動障害の方はホームで暮らすのは難しいので入所施設へ行ったほうがいい、などと言われるたりしています。

昭和の時代から障害のある方の地域生活を目指してきた古い福祉人にとって、入所施設はやめよう、地域で暮らそう、が合言葉だったはずなのに、なぜ重度障害の方のみ時代を逆行するのでしょうか？

そもそもなぜ私たちは脱施設を目指したのか？従来の大きな施設では夜勤はふたりの職員で50人くらいの入所者を見守る体制が標準でした。そのような体制の中で、何かを訴えてパ

ニックを起こす行動障害の方に丁寧に寄り添うことは到底できず、癒されない方たちの激しい行動は破壊や他害へとエスカレートしていきます。しかもそのような行動が複数の入所者によって施設内のあちこちで多発し、職員は疲弊してしまいました。手薄な体制の中で職員は精一杯であり、一人一人に罪はありませんが、疲弊し追い詰められる環境の中で、道を外れてしまう人間がついに現れてしまいました。

グループホームも決して当たり前の暮らしとは言えません。もっと一人一人が尊重され人間らしく生きられる形はあるのかもしれませんが、しかし現行の制度下では、少なくとも施設より人手は厚い。そして難しい人ほど加算がつけられる仕組みになっているから、赤字で倒産することにはなりません。

ねがいのいえの最重度棟である「グループホームしあわせそう」では、一晩中パニックが続く方も暮らされていますが、落ち着かない晩には支援員が夜を徹してひとり付き添います。そのために設計した広いリビングを一緒に歩き続け、時に抱きしめ、寄り添っているうちに表情が穏やかになりやがて眠りにつきます。これは私たちの得意としている心のケアのメソッドを、スタッフ全員が学んでいるからできることですが、何よりも、ひとりが完全に付き添うことのできる体制があつてのことです。それは今の報酬体制での入所施設では絶対に実現できないことであり、グループホームが現行制度下のベストであると私たちが訴える所以です。

だからこそ今、世の全事業者に訴えたいのです。全ての事業者が出会った方の生涯を支えようと決めること。そして、自分たちと出会ったらもう生涯心配しなくていいのだと、利用者のみみなさまへ伝えて欲しいのです。どんな困難があっても私たちが支えると、全事業者が全利用者に伝えて欲しいのです。

我が子に障害があることを知った日から、ご家族は自分が死んだあとこの子はどうなるのだろう、自分はこの子よりも一日でも長く生きなければならぬ、と思いながら暮らしてきたことでしょう。人間なら生きていれば誰しも悩みは尽きないのが当たり前ですが、障害のある子のご家族は、普通の人間としての悩みに加え、大きな不安をひとつ余計に背負うこととなります。そんな社会を終わりにしたい、という願いが、ねがいのいえの願いです。

社会福祉法人ねがいの杜（ねがいのもり） 8月よりスタート

2021年度さいたま市の補助金をいただいて建設する予定だったグループホームが、コロナ禍の影響で年度をまたぐことになり、本来は4月から社会福祉法人として始動するはずでしたが、心ならずも延期になっていました。7月に無事着工し、新法人への移行も8月1日からの予定で進んでいます。それに際しまして、法人の名称を変更することになりました。

新しい名称は、「**社会福祉法人ねがいの杜**」です。

「ねがいのいえ」から「ねがいの杜」へ。美しい森林を豊かに残すこの「杜の町」で、共に暮らし、この町をつくってゆく想いをこめて名付けました。これからも応援お願いします。



新生活介護の建設が始まりました。

ねがいの杜2軒目の生活介護は、重心の方を対象とする、特浴とプールを備えた「生活介護ハナミズキ」です。10月竣工、年内指定受諾を目指しております。

プールで全身運動を促し、常駐するマッサージスタッフがボディケアを施し、ご家族が最も困っている入浴のニーズに応えます。また、最新の視線入力システムによるコミュニケーション支援を導入し、言葉の話せない方たちの気持ちを理解したいと考えております。

竣工の際にはぜひ内覧会にいらしてください。

生活介護ハナミズキ [2022年10月完成]



一日のスケジュール

- 8:00 迎え出発
- 9:30 朝礼、体調チェック
- 10:30 午前のプログラム
入浴、フェール
- 12:00 昼食、休憩
- 13:30 午後のプログラム
入浴、フェール
- 15:00 トイレ、水分補給
- 15:30 終礼、送り出発

※重心の方を主な対象とする生活介護です。**胃ろう、気管切開、呼吸器ユーザー等、医療的ケアの方も**ご利用いただけます。

GH ほほえみそう内覧会を行います

積水ハウスが創る「障がい者グループホーム」
社会福祉法人ねがいの杜
「ほほえみそう」内覧会

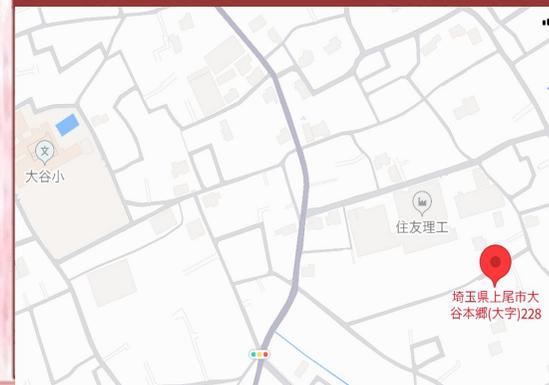
8月7日(日) 10:00~16:00

積水ハウスが提案するグループホームの実例を是非ご覧ください。



- 建物タイプ 軽量鉄骨造
- 商品名 セレブリアOB
- 敷地面積 362.16㎡ (109.55坪)
- 延床面積 244.84㎡ (74.06坪)

ACCESS
住所: 上尾市大谷本郷 228-3



～～ねがいの杜様より～～
ねがいの杜3軒目のGH「ほほえみそう」は、4年前にオープンした男性棟「にぎやかそう」の隣に建設した女性棟です。2軒が互いに助け合うペア棟。法人初のエレベーターも備えた快適なホームです。

お問い合わせは下記までお願い致します。



積水ハウス株式会社 埼玉シャーマゾン支店当: 西塚
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木野5(ソニックシティビル27F)
営業時間: 9:00~18:00
定休日: 毎週土曜・日曜・祝日

TEL:080-2033-9366